

朋あり。遠方より来る。

本あり、縁方より来る。

「前橋BOOK FES 2024」

2024年10月19日(土)・20日(日) 群馬県前橋市で開催



前橋ブックフェス実行委員会（実行委員長：小川晶 前橋市長）は、「前橋BOOK FES 2024」を10月19日（土）、20日（日）の2日間、群馬県前橋市の中心市街地（まちなかエリア）にて開催します。

2022年に初回開催された本イベントは、「本でみんなが元気になる。」のコンセプトのもと、古本市とは異なる「本のやりとり」を主軸とし、「もう読まないけれど、処分するにはもったいない」「読みたがっている他の誰かに渡したい」など思いの詰まった1冊を新たな人につなげる本の祭典です。

2022年の開催時には、20,537冊が「本のやりとり」によって新しい読み手に渡るなど、予想を超える賑わいを見せました。

今年は、本のやりとりに加え、食や宿泊のコンテンツを充実し、市民、地元商店や企業の参加機会も広げて展開する他、糸井重里とあだち充のトーク、スペシャルサポーターのみうらじゅんによるコンテンツなど、ゲストを招き多彩な関連イベントを開催します。

開催概要

タイトル	前橋BOOK FES 2024（前橋ブックフェス 2024）
主催	前橋ブックフェス実行委員会
共催	前橋市
期日	2024年10月19日（土）・20日（日） 10時～17時
会場	前橋市のまちなかエリア 中央通り、弁天通り、前橋中央イベント広場、前橋プラザ元気21等
内容	「本のやりとり」、トークショーやワークショップなど「本のイベント」、 地元商店街やキッチンカーによる「前橋の食」（仮）、キャンプサイト・民泊など
公式HP	https://www.maebashibookfes.jp/

前橋ブックフェス実行委員会 役員

実行委員長	小川 晶（前橋市長）
エグゼクティブプロデューサー	糸井重里（株式会社ほぼ日 代表取締役社長）
エグゼクティブディレクター	田中 仁（株式会社ジंズホールディングス 代表取締役CEO）



小川 晶 前橋市長



糸井重里



田中 仁

コンテンツ概要 現時点の概要となります。いずれも詳細決定後、随時情報を発信する予定です。

1. 「前橋に送る本」

誰の家にもある、捨てたくない、誰かが読んでくれたら嬉しい本を選んで、所定の方法で前橋にお送りいただきます。そこにこめられる本への思いと利他の精神は前橋BOOK FESの出発点です。是非ご参加ください。

2. 「本のやりとり」

「前橋に送る本」や、イベント当日に出展者が持ち寄る本が会場に集まります。フェスに参加する本好きの方々が、本や人との出会いと対話を経て、本を譲り受けてお持ち帰りいただくプログラム。本イベントの主軸となります。

3. 「本のイベント」

トークショー、朗読、音楽、子どもも楽しめるワークショップなど、本にまつわる様々なプログラムを予定しています。

4. 「前橋の食」（仮）

当日は来場される方々に前橋の色を楽しんでいただけるように、商店街の店舗、キッチンカー、ケータリング等で十分なフード、ドリンクをご用意します。

5. 「民泊・キャンプサイト」 **NEW!!**

キャンプ好きの方にも注目してほしい「前橋BOOK FES 2024」の新しい取組。「本のやりとり」で手にした本をじっくりと楽しむ静かな夜はいかがでしょう？宿泊エリアの詳細は、決定次第発表します。

6. 「同時開催イベント」

当日、まちなかエリアとその周辺の各所でマルシェや音楽ライブなどのイベントが同時開催される予定です。まち歩きと共にお楽しみいただけます。

開催の経緯と方針

「前橋BOOK FES」は、「本でみんなが元気になる。」のコンセプトのもと、「RockとBookは似ている、RockにフェスがあるならBookにフェスがあってもいい」という糸井重里氏の発想を起点に、民間発意による官民連携のイベントとして2022年に始まりました。古本市とは異なる「本のやりとり」を主軸とします。前例のないイベントに戸惑いもありましたが「前橋BOOK FES 2022」は、2日間で約48,000人の来場、当日の寄贈分も合わせて26,737冊が集まり、20,537冊が「本のやりとり」によって新しい読み手に渡るなど、予想を超える活況を得ました（写真別頁参照）。「本のやりとりや色々なイベントに参加して楽しかった」という声に加えて、「まちなかに人がたくさん集まっているのに落ち着いた雰囲気イベントでよかった」「家族や友人といっしょに本を読むシーンが多く見られたのがよかった」「遠隔地からもわざわざ来てくれた人もいて驚いた」など好意的な感想が、地元からも寄せられました。参加者にも地域にとっても嬉しいイベントとして、継続の意義が関係者間で確信されたことで本年の開催決定に至りました。

話題の飲食店やアートホテル、有力な企業やギャラリーの進出、公共トイレや川沿いのランドスケープのリデザインなどで前橋に注目が集まっています。前橋BOOK FESを、より多くの人が前橋を訪れ、まちを歩き、市民と言葉を交わして、前橋の魅力を肌で感じていただく機会と位置付け、育てていきます。

「前橋BOOK FES 2024」への参加について

「前橋BOOK FES 2024」はみんなで作るフェスです。本を楽しむ人ならどなたでもご参加いただけます。

「自分ではもう読まないけれど捨てたくはない、誰かが読んでくれたら嬉しいのに」という本を選んで、所定の方法で前橋にお送りいただきます。お預かりした本は整理・分類した上で、イベント当日の「本のやりとり」に提供します。

まず「前橋に送る本」をどれにしようかと考えるところからブックフェスを始めてください。イベント終了後に残った本についても、寄贈や図書スペースなどの活用を検討しています。

「前橋BOOK FES 2024」へ本を送る手順

受付期間：9月1日～9月30日

送付方法の詳細は、ウェブサイトよりご確認ください。

「前橋BOOK FES 2024」はみんなで作るフェスです。本を楽しむ人ならどなたでもご参加いただけます。

「自分ではもう読まないけれど捨てたくはない、誰かが読んでくれたら嬉しいのに」という本を選び、所定の方法で前橋にお送りください。

お預かりした本は整理・分類した上で、イベント当日の「本のやりとり」に提供します。

まず「前橋に送る本」をどれにしようかと考えるところからブックフェスを始めてください。イベント終了後に残った本についても、寄贈や図書スペースなどの活用を検討しています。

プレスお問合せ先：HOW INC.

Mail. pressrelease@how-pr.o.jp

Tel. 03-5414-6405

お客様お問合せ先：前橋ブックフェス実行委員会事務局

Mail. info@maebashibookfes.jp

参考資料【画像】

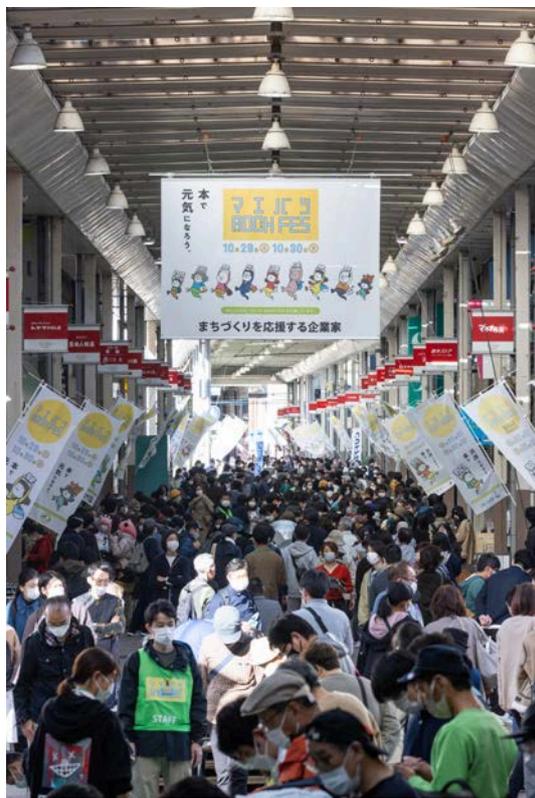
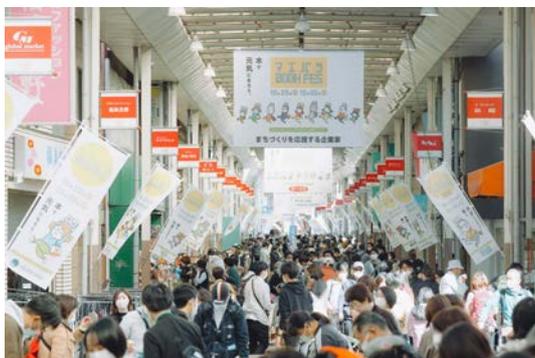
前橋BOOK FES ロゴマーク



ヨシタケシンスケ氏が今年のブックフェスのために描き下ろしたキャラクター



前橋BOOK FES 2022 当日の風景から



参考資料 前橋のデザインスポット



アーツ前橋 2013年10月開業
前橋市の公立美術館。市民とアーティストによる文化芸術活動の拠点として、多くの展覧会と地域アートプロジェクトを実施。8月25日まで荒井良二、9月21日から「リキッドスケープ 東南アジアの今を見る」を開催。



白井屋ホテル 2020年12月開業
藤本壮介による建築に、レアンドロ・エルリッヒなど国内外のアーティストの作品が客室や共有部に多数設置され、美術館に泊まるような体験を楽しめるホテル。『ゴ・エ・ミヨ』に3年連続掲載のレストランも注目を浴びている。
Photo : Shinya Kigure



まえばしギャラリー 2023年5月オープン
平田晃久建築設計事務所が設計したアートと生活空間が共生するコーポラティブクリエイションハウス。1Fには、タカ・イシイギャラリーが運営するギャラリー1、小山登美夫ギャラリー・MAKI Gallery・rin art association・Art Office Shiobaraの4者による共同運営というギャラリー2が拠点を構える。
Photo : Shinya Kigure



馬場川パブリックトイレ 2024年5月竣工
ジャスパー・モリソンがデザイン、高濱史子がローカルアーキテクトを担当したパブリックトイレ。



ばばっかわスクエア 2024年
サポーズデザインオフィスの谷尻誠と吉田愛が手掛ける複合施設「ばばっかわスクエア」
JINSの前橋馬場川オフィス、minä perhonenの店舗などが入居している。



太陽の鐘 2018年8月設置
岡本太郎による作品「太陽の鐘」。静岡県内のレジャー施設に1999年まで設置されていた作品を、2018年に広瀬川河畔に移設した。

参考資料 前橋のデザインスポット



GRASSA 2018年8月オープン
設計 中村竜治建築設計事務所。中央通り商店街にある米オレゴン州ポートランド発祥の手作りパスタ店。「前橋デザインプロジェクト」の一環で開発された。
Photo : Shinya Kigure



なか又 2020年4月オープン
設計 スキーマ建築計画。中央通り商店街にある「和む菓子」を届ける和菓子店。「前橋デザインプロジェクト」の一環で開発された。
Photo : Shinya Kigure



月の鐘 2023年9月オープン
永山祐子設計。老若男女が楽しめるマイルドカレーのお店。3軒隣のGRASSAから続くレンガの外構床を「月の鐘」の店内の床へ取り入れることで周囲との調和を図っている。「前橋デザインプロジェクト」の一環で開発された。
Photo : 阿野 太一



つじ半 2018年8月オープン
高濱史子設計。中央通り商店街にある“ぜいたく井”が人気の海鮮丼専門店。本店は日本が市にある。「前橋デザインプロジェクト」の一環で開発された。
Photo : Shinya Kigure



前橋文学館
萩原朔太郎、平井晩村、高橋元吉、萩原恭次郎、伊藤信吉ほか多くの詩人を輩出した「近代詩のふるさと」前橋の文学館。特に朔太郎資料は原稿など全国一の質と量を有する。



JINS PARK 前橋
永山祐子設計。アイウェアブランド「JINS」とベーカリーカフェ「エブリパン」を併設したロードサイド店舗。メガネを販売するだけではない体験型の新しい店舗のありかたを提案している。